

被害が広がっています！

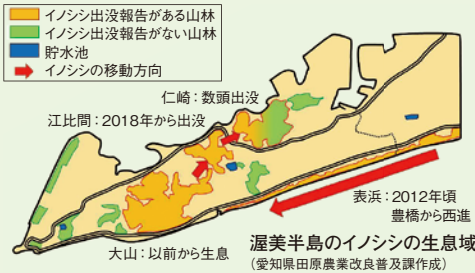
イノシシ被害の現状と対策

●現在のイノシシの生息状況

本市では、この20年間急速に生息数を増やすとともに、生息範囲を広げています。生息場所は、初めに観測された大山周辺や表浜一帯の山林だけでなく、最近では江比間や芦の山の麓、さらに仁崎などにも広がっています。

また、住宅地や子どもたちの通学路付近でも目撃情報があり、人への被害も懸念されます。

農作物への被害としては、山林近くの農地を中心に、水稻・トウモロコシ・イモ類・野菜などの食害や土地掘り起こしの被害が出ています。



猟友会が、平成30年度に271頭のイノシシを捕獲しましたが、現在も市内には多くのイノシシが生息していると思われる

す。

●イノシシの生態

イノシシは本来夜行性で、人里近くの低い山で移動と定着を繰り返しながら生活しています。性質は警戒



心が強く臆病ですが、学習能力が高いため、危険がないと分かると、昼間でも餌を求めて活動するようになります。

食性は雑食性で、タケノコ、ヤマイモ、ドングリなどのほか、昆虫やミミズなどの小動物が主な餌です。ただし、人里の農作物や生ごみなど、イノシシにとって簡単に手に入るごちそうがあることを覚えてしまうと、その味を求めてたびたび出没するようになってしまいます。

《注意！》

イノシシは臆病な動物ですが、興奮すると暴れだし、手につけられなくなります。もし出会っても、刺激することなく、ゆっくりと後ずさってその場を立ち去りましょう。

●行政の取り組み

既に本市ではイノシシの被害が少なからず発生しています。加えて、昨今は豚コレラウイルスを媒介してしまうことも危惧されます。

現在、渥美半島に生息する野生イノシシは元々生息していたものでなく、他地域から入り込んだものです。そこで、愛知県、豊橋市、田原市では渥美半島野生イノシシ根絶協議会を結成し、



▲わなにかかったイノシシ

狩猟の担い手の確保・育成やわなの増設、出没場所の共有、流入・拡散を防止する柵を設置するなど

の対策により、野生イノシシの早期根絶を目指しています。また、これと合わせ、農家・猟友会などと連携して環境管理・被害防除体制を確立する取り組みを進めています。

●農業者が行える対策

イノシシの被害を防ぐためには、地域ぐるみでイノシシを寄せ付けないようにする対策が効果的です。協

力して被害を減らしていきましよう。例えば、次のような対策が考えられます。

●隠れ場所を作らない

草の茂った耕作放棄地や、田畑周辺のやぶは絶好の隠れ場所です。草や下枝を切り、周辺の見通しをよくすることで、イノシシが近寄りにくくなるようにしましょう。

※刈り込んだ草などはすぐに片付けましょう。草の下にミミズなどが集まり、イノシシを引き寄せてしまいます

●餌となるものをなくす

穀物や野菜のくず（農業残渣）はイノシシにとってごちそうです。農作物は残さず収穫し、農業残渣は適切に廃棄しましょう。

●防護柵の設置

農地周辺に電気柵などの防護柵を設置する対策も効果的です。地域が一体となって設置することにより、イノシシに餌場として認識させない学習効果も期待できます。農政課には保護柵設置の補助金制度もあります。

野生イノシシについてのお問い合わせは、市農政課までお願いします。

☎27-275